



Title	観光需要の季節変動と地域経済
Author(s)	齋藤, 久光
Citation	地域経済経営ネットワーク研究センター年報, 6, 88-91
Issue Date	2017-03-29
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66566
Type	departmental bulletin paper
File Information	075Saito.pdf



＜第5回研究会＞

観光需要の季節変動と地域経済¹⁾

齋藤 久光

1. はじめに

観光業は、地方を中心に、地域経済を支える基盤産業としての役割が期待されている。観光地としての競争力を高め、多くの観光客を誘致しようと、これまでに様々な政策が実施されてきた。しかし、観光客の増加により繁忙期と閑散期の観光客数の差が拡大すると、閑散期における設備稼働率の低下を懸念し、繁忙期に向け十分な設備投資を行うインセンティブが失われる可能性も否定できない。その場合、観光客の増加は必ずしも地域の雇用や税収の増加につながらない。資本設備の固定費用を賄うのに十分な収入が繁忙期に得られるかは、観光業だけでなく、地域経済にとっても大きな懸念事項となっている。

一方、資本設備とは異なり、雇用はその柔軟性により季節変動に応じた調整が容易である。観光業者は、繁忙期には非正規労働者を雇うことで観光需要の増加に対応し、閑散期は一人の従業員を複数の業務に従事させることで労働費用の削減につなげる。Park *et al.* (2016) は英国の宿泊業を事例に、こうした柔軟性が労働生産性の向上に寄与することを実証している。しかし、非正規労働者が安定した雇用や高賃金の職を求め他地域で求職する事例や、宿泊業者が繁忙期に技能労働者を確保しづらくなっている事例が報告されており (Adler and Adler 2003; Terry 2016)、観光業や地域経済の持続的発展に向けて、雇用の柔軟性以外に、季節変動の影響緩和に有効な政策手段を見出す必



要がある。

季節変動の要因として、BarOn (1975) は自然条件と制度的条件をあげている。観光目的にもよるが、気候や日照時間などの自然条件が観光客の訪問時期の選択に大きく影響することは想像に難くない。一方、制度的条件には、祝日や長期休暇といった休日に関する制度に加え、目的地にどのような観光スポットがあり、どういった活動ができるのかなども含まれる。既存研究では、要因ごとに有効な対応策が示され、その多くが実際に実施されている。イベントの開催や閑散期の旅行代金の引下げ、天候に影響されない文化活動などはその一例である。また、ビジネス客の誘致や MICE の誘致も盛んに行われている。しかし、どの手段が季節変動の削減に最も有効かについては、いまだ議論が深まっていない。

そこで本研究では、スペインの宿泊業を対象に、観光需要の季節変動が地域の生産性に与える影響を定量的に評価する。生産性は企業や産業の業績を表す指標として使われるだけでなく、地域間経済格差の源泉でもあることから、繁忙期の観光客数の増加と季節変動の縮小のどちらがより観光業の利潤向上に効果的なのか、また、季節変動を削

1) 本稿は Saito and Romão (2017) を要約したものである。データの出所や分析方法、結果の詳しい説明はそちらを参照されたい。

減することで地域の生活水準はどの程度改善するのかを明らかにすることができる。さらに、季節変動の要因分解を行い、変動の削減に有効な政策について議論する。

2. スペインの経済と観光

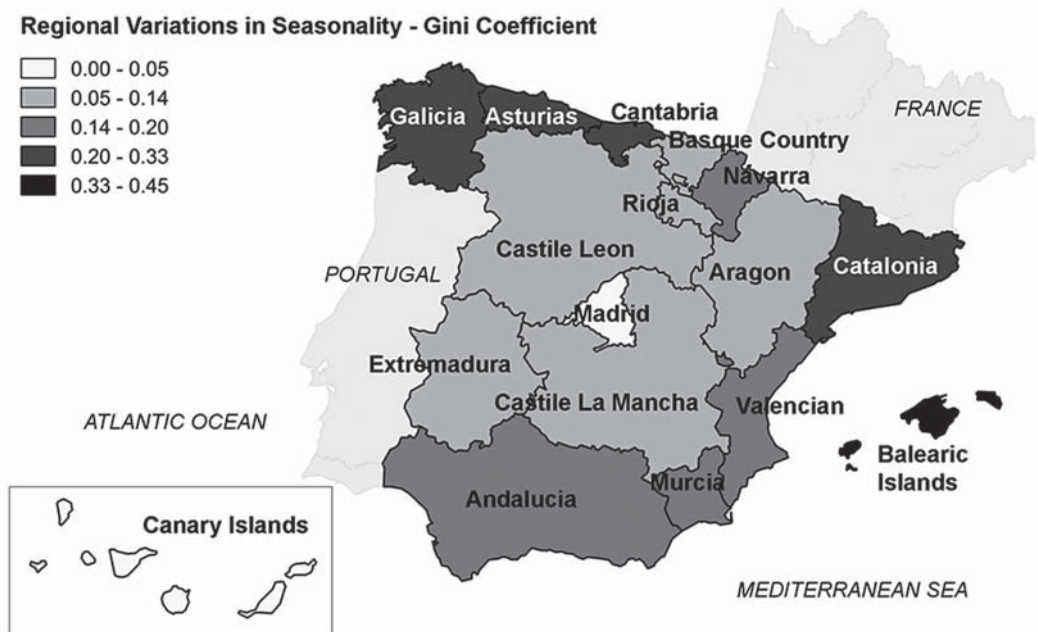
スペインはEUの中でも有数の経済規模を持つ国であるが²⁾、その経済は観光に大きく依存しており、GDPの5.6%、雇用の5%、輸出額の15.3%が観光業によるものである³⁾。また、国内に主要な観光地をいくつも抱え、EU域内の延べ宿泊者数上位10地域のうち、4つがスペインにある⁴⁾。

ただし、季節変動の程度は地域によって大きく異なる(図1)。変動の要因もさまざまで、例えば、カナリアス諸島州は亜熱帯気候で年間を通して観光客が訪れるため季節変動は小さいが、バレアレ

ス諸島州は地中海性気候で観光客が夏季に集中するため変動が大きい。マドリード州はスペインの首都でビジネス客が多いことが、季節変動が小さい要因の一つと考えられる。このように、季節変動が地域経済に及ぼす影響とその要因を分析するうえで、スペインは非常に興味深い事例と言える。

3. 分析方法と推定結果

まず、宿泊業の産業レベルの生産性を各地域で年ごとにもとめる。具体的には、2001年から2014年までの地域別の宿泊業のパネルデータをもとに生産関数を推定し、全要素生産性(A_{rt})を計算する。ここで、 r は地域(NUTS 2)を、 t は年を表す。生産量は年間延べ宿泊者数とし、生産要素として従業員数とベッド数をもちいる。推定さ



出所: Saito and Romão (2017)

図1: 地域別観光需要の季節変動

2) 2015年のスペインのGDPはEU内で5番目の規模である(Eurostat)。

3) EU平均では、観光業がGDP、雇用、輸出額に占める割合はそれぞれ3.4%、3.6%、5.6%である。

4) 具体的には、カナリアス諸島州(延べ宿泊者数1位)、カタルーニャ州(3位)、バレアレス諸島州(4位)、アンダルシア州(8位)の4地域である(Eurostat、地域区分はNUTS 2にもとづく)。

れた全要素生産性を、繁忙期の宿泊者数を表す月別延べ宿泊者数の年間最大値 ($\max_{rt}$) と季節変動を表す変数 (S_{rt}^1) に回帰し、次の結果を得た⁵⁾。

$$(1) \ln A_{rt} = -2.244^{***} + 0.498^{***} \ln \max_{rt} - 0.189^{***} \ln S_{rt}^1.$$

式中の *** は係数が 1% 水準で有意であることを示す。繁忙期の宿泊者数と季節変動のどちらも統計的に有意であり、繁忙期における観光客の誘致と季節変動の削減はいずれも宿泊業の生産性を高める効果が期待される。

生産性を地域別にみると、地中海沿岸で高く、内陸部や大西洋沿岸で低い傾向にある。(1) 式の推定結果をもとに、この地域差を Hall and Jones (1999) にしたがって要因分解すると、季節変動は地中海沿岸地域と大西洋沿岸地域ともに大きく、両地域で生産性を下げる要因になっている⁶⁾。しかし、地中海沿岸地域は、繁忙期の宿泊者数が季節変動の負の効果を打ち消すに十分なほど多く、結果的にスペインで最も生産性の高い地域となっている。すなわち、地域の生産性改善には、繁忙期の観光客数を増やすことが最も有効であるが、季節変動の削減も無視できない効果をもつ。

そこで、季節変動の削減に向けた政策提言を目的に、季節変動を表す変数を、人口密度 (popden_{rt})、産業別雇用者数にもとづくハーフィンゲル指数 (HHI_r)、世界遺産数 (hrtg_{rt})、博物館数 (mus_{rt})、外国人観光客の割合 (shf_{rt})、全観光客数 (tvr_{rt}) に回帰した。その推定結果は以下のとおりである。なお、(2) 式中の **, *** はそれぞれ係数が 5%, 1% 水準で有意であることを示す。

$$(2) \ln S_{rt}^1 = -3.114^{***} - 0.082^{***} \ln \text{popden}_{rt} - 0.026 \ln \text{HHI}_r - 0.131^{***} \ln(1 + \text{hrtg}_{rt}) - 0.202^{***} \ln \text{mus}_{rt} + 0.454^{***} \ln \text{shf}_{rt} + 0.100^{**} \ln \text{tvr}_{rt}.$$

まず、人口密度の係数が負で有意なことから、人口密度が高く経済規模が大きい地域ではビジネス客が多く、その分、季節変動が小さくなると考えられる。次に、世界遺産数と博物館数ともに季節変動を縮小する効果を示すが、これは、全天候型の施設を整備することで閑散期の観光客数が増加し、季節変動が削減されることを示唆している。最後に、外国人観光客は自国の休日制度にしたがい旅行計画を立てるため、その割合を増やすことでスペイン国内の季節変動が平準化されると期待したが、その係数は正で、むしろ外国人観光客は観光に最適な季節を選んでスペインを訪問するため、変動を拡大する要因となっていることが分かる。

以上の要因が季節変動に及ぼす影響を定量的に比較するため、(2) 式をもとに、季節変動の要因分解を行った。分析の結果、博物館数や外国人観光客の割合、地域固定効果と残差の和として定義される自然条件が季節変動の主要因であり、都市規模や世界遺産数も比較的貢献度が高い。自然条件については、例えば、カナリアス諸島州とバレアレス諸島州はどちらもビーチリゾートとして知られた地域だが、季節変動に関しては、前者はスペインで最も変動が小さく、後者は最も大きい。要因分解によると、自然条件以外の(2)式の変数はいずれも両地域ともにほぼ同じ値を取り、亜熱帯性気候と地中海性気候という自然条件の違いが地域間の季節変動の差のほとんどを説明している。

5) 季節変動を表す変数としてジニ係数 ($i = 1$) と変動係数 ($i = 2$) をもちいた2つの推定を行ったが、ほぼ同じ推定結果が得られたため、以下ではジニ係数の結果を示す。地域固定効果と年固定効果の推定値は紙幅の都合上割愛する。(2) 式も同様である。

6) 地域間生産性格差と季節変動の要因分解についての詳細な結果は、Saito and Romão (2017) の表5と表7を参照のこと。

4. おわりに

観光業の発展は地域経済の活性化に効果的であるものの、観光需要の季節変動によりその効果が弱まると懸念されている。また、季節変動の削減に有効な政策手段について研究の蓄積は進んでいるが、どの手段が最も効果的かについてはよく知られていない。本稿では、季節変動が地域の経済、特に生産性に与える影響を、スペインの宿泊業を事例に分析した。また、季節変動の削減に有効な手段についても、その要因分解から明らかにした。

分析の結果、地域間の生産性格差は非常に大きく、その多くが繁忙期の観光客数の違いによって説明される。すなわち、地域の観光業者および関係機関は、繁忙期にいかに多くの観光客を誘致するかについて重点的に検討すべきである。しかし、繁忙期における観光客のさらなる増加は、観光地の環境悪化などの問題を引き起こす可能性が高い。地域の持続的発展を考えると、季節変動の削減による生産性向上も十分効果的であり、そのためには全天候型の施設の設置やビジネス客の誘致が有効である。

参考文献

- Adler, P. and P. Adler. (2003). "Seasonality and flexible labor in resorts: Organizations, employees, and local labor markets." *Sociological Spectrum*. 23: 59–89.
- BarOn, R. (1975). *Seasonality in Tourism: A Guide to the Analysis of Seasonality and Trends for Policy Making*. London: Economist Intelligence Unit.
- Hall, R. and C. Jones. (1999). "Why do some countries produce so much more output per worker than others?" *Quarterly Journal of Economics*. 114: 83–116.
- Park, S., Yaduma, N., Lockwood, A. and A. Williams. (2016). "Demand fluctuations, labour flexibility and productivity." *Annals of Tourism Research*. 59: 93–112.
- Saito, H. and J. Romão. (2017). "Seasonality and regional productivity in the Spanish accommodation sector." Unpublished manuscript.
- Terry, W. (2016). "Solving seasonality in tourism? Labour shortages and guest worker programmes in the USA." *Area*. 48: 111–118.